

初心に立ち返り、今ある場所で輝こう

新潟西支部長 長谷川 豊（59年度）

2016年NHK大河ドラマ「真田丸」の題字を覚えていますか。縦3 m，横6 mの赤土の壁に鏝こてで「真田丸」と刻んだ稀代の左官職人・挟土秀平さん。

自信を現場に持ち込むな。臆病者であれ。がんばっても成功できるとは限らない。けれど、がんばらないと成功は得られない。

土のソムリエと称される挟土さんは、自他共に認める「臆病者」。風船を見ただけで、割れるんじゃないかとドキドキすると言います。現場でも臆病に徹します。何度も材料を作り直し、試します。自分自身に問い掛けるように「大丈夫か？」とぼやきます。その裏には、自信過剰になれば仕事がおろそかになり、必ず落とし穴に落ちるという強い思いがあります。常に不安を抱えることで、感覚が研ぎ澄まされ、良い仕事ができるのだそうです。

この言葉を聞いた時、世阿弥の言葉「初心忘るべからず」と重なりました。「物事に慣れると慢心してしまいがちになる。最初の頃の志を忘れずに緊張感を持って事に当たれ。」という意味で使われます。

しかし、世阿弥の言葉はもっと深く繊細な意味を持っています。世阿弥が言っている「初心」は「初心者」の初心のこと。まだ未熟な状態のことです。「何かを始めたときの下手だった記憶や、そのときに味わった悔しい気持ちや恥ずかしさ、そこから今に至るまでのたくさんの努力を忘れてはダメ。」という意味です。さらに、過去の未熟な状態だけを思うのではなく、今の自分も「未熟」な状態であると自覚しなさいとも言っています。

新型コロナウイルス感染症拡大とそれに伴う休校により、学校の重要性が再認識されました。学校は、子どもたちにとっても保護者にとっても、社会にとっても必要であり、期待されていることが分かりました。だからこそ、学校は子どもたちの「今の幸せ」と「未来の幸せ」を提供する場でなければなりません。

新学習指導要領は、2030年の社会とさらにその先の豊かな未来を築く子どもたちを想定してつくられました。「主体的・対話的で深い学び」によって未来社会を創造するための資質・能力を確実に身に付けていくことが、子どもたちの未来を幸せにします。

私たちに求められているのが頭の切り替え、変化です。これまでの授業づくりは、学習指導要領や教科書で「何を教えるか」を確認し、学習活動を組み立てていました。今は、学習指導要領の目標を確認し、「この単元でどんな資質・能力を身に付けていくのか」を明らかにし、資質・能力の3つの柱を発揮させるための学習活動を組み立てていきます。

教師の役割が「教える人 (Teacher)」から「引き出す人 (Facilitator)」に変わったのです。「教える専門家」から「学びの専門家」へと変身しなければならないのです。来年度に全面実施を迎える中学校においても、今年は授業の在り方を問い直す準備期間になります。

新学習指導要領への対応も、学校における働き方改革の推進も、新型コロナウイルス感染症対策も、すべて「子どものために」「子どもにとって」という文脈で語られなければならないのだと思います。学校も学習指導要領も子どもたちのためにあります。これまでの学校の「当たり前」や慣行、いわゆる前例踏襲を見直し、本当に子どものためになるのか、子どもにとっての意味は何かを語り合うことが、学校にとっての本質的な部分なのではないでしょうか。

教師ほど経験と勘でやれる職業はないと揶揄されます。ある程度経験してくると自信が付いて、得意になってしまいます。それでは成長が止まります。さらに経験を重ねると、伸び悩み、自分の未熟さに気付いていきます。同僚の話を聞いたり先輩に教えを請うたりして、自分を磨き上げなければなりません。ベテランになってくると、だれもアドバイスをしてくれなくなり、成長が止まってしまうことで力が落ちてきます。その時々を壁をどう乗り越えていくか、その工夫が「時々の初心」と世阿弥は言います。

若い頃に、ときわ会の先輩から教わった言葉です。「若い時は、保護者からかわいがられなさい。中堅になったら、保護者から相談される人になりなさい。ベテランになったら、保護者の相談に応えられる技能をもちなさい。」

熱心さと愛情以上に、「教えるプロ」として、指導力を身に付けていくことの大切さを説いています。私たちの仕事は、目の前の子どもたちの学ぶ意欲を喚起することから始まります。そのためには、自らをまず明るく元気で、エネルギーを周りに振りまく存在でありたいです。

私たち教師の自己実現は子どもの成長によってもたらされます。子どもたちの成長が教師の成長と重なり、子どもたちの幸せを自らの幸せとすることができる尊い仕事です。同時に、教師自身の成長のため、子どもたちの成長のために、常に学び続けなければならないという厳しい仕事でもあります。

みんなで集まって、みんなでわいわいがやがやできない今こそ、世阿弥の言う「時々の初心」を大切に、今ある場所で、一所懸命がんばりましょう。「教育は人なり」の言葉を噛みしめ、子どもたちとの日常的な関わりを大切に、子どもの笑顔と活力を引き出していきましょう。